

文化庁助成

市民芸術講座  
室内楽 3 日目

室内オーケストラの夕べ

昭和53年 3 月 19 日 (日)  
午後 6 時 30 分開演  
市川市民会館ホール

共催 市川市教育委員会  
市川交響楽団協会

# プログラム

## 市響室内オーケストラ演奏

指揮 金子建志

### 管弦楽

歌劇「魔笛」序曲……………モーツァルト

組曲「第2番」ロ短調……………J. S. バッハ

#### 序曲

フルート 木村真論記

#### ロンド

サラバンド

ブレエ

ポロネーズ

メヌエット

バディネリ

### オーボエと管弦楽

オーボエ 坂 逸郎

オーボエ協奏曲……………マルチェロ

アレグロ・モデラート

アダージョ

アレグロ

### 合唱

市川混声合唱団

指揮 村上正治

マドリガール

ある朝早く……………イギリス古謡

たい松かざして……………フランス古謡

モテット

バビロン河のほとり……………パレストリーナ

エクスルターティ・デーオ……………スカルラッティ

オラトリオ「救世主」最終楽章……………ヘンデル

世の罪を負いてほふられたる小羊

### 管弦楽

組曲「水上の音楽」……………ヘンデル

ハーディ編曲

アレグロ

アリア

ブーレ

ホーンパイプ

アンダンテ

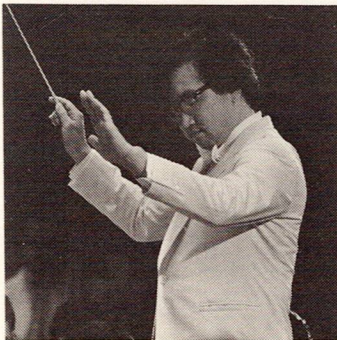
アレグロ・ジチーソ

## 紹介

### 金子建志

市響一金子建志。その結びつきは1972年に始まる。73年に常任指揮者。以後一貫して、市響は彼の棒のもとに成長していった。

我々が要求した一見無謀と思えるレパートリーも彼の努力と熱意でこなしてきた。彼あつてのことである。ステージで振ることは勿論、練習場でのトレーナーとして、あくことなき音の探求者として、毎土曜日の夜、そこに彼の姿がある。オケの仲間達が何かの都合で出られなくとも一。出席率№1オケの皆さん恥ずかしくはないか。と云うわけで、我々にとってまことに得難い人であります。この有難味を我々団員はふと忘れることも多々あると反省するわけです。



彼との練習でのつきあいは楽しいものです。我々に絶対、強制はしない。じっと我慢の子、あるいはその間、彼自身の心の葛藤があるのかも、その証拠に時々、メガネの奥から強烈な皮肉をとばす。我々アマチュアのなんたるかをわきまえてくれています。秋にはマラーの大作「巨人」彼は練習で、何くわぬ顔で乱れぬ棒を振ってくれることでしょう。

宜しくね 建志さん。

余り知られていない番組ですが、NHKFM千葉で、毎週1回（主として第3土曜日）夕方5時から、クラシックリクエストと云う番組を担当しています。師匠（柴田南雄）ゆずりの博学（雑学？）はしばしば傾聴に値します。尚、他に、NHKFMの全国ネット20.05分からのクラシックアワーにも度々出演されています。本年1月に京都府会館における京都交響楽団の一連の青少年コンサートに出演されタクトを振りました。千葉高から東京芸術大学楽理科卒。作曲を柴田南雄。指揮を齊藤秀雄の各氏に師事。現在高美音楽院講師も務めています。住所は習志野市藤崎3-28-11。

## 坂 逸 郎

坂(ばん)先生は、元N響のトップオーボエストであり、日本のオーボエの草分けとして有名な先生で、今は後進の指導や、近隣の中、高校、大学のプラスバンド等のトレーナーとしてご活躍中です。市吹の常任指揮者として、ここ数年来タクトをふっていただいています。練習中は至極きびしい顔つきで、我々をふるえあがらせるのですが、練習が終わると「みんなて飲みにいこう…」などと、大変気さくな先生でいらっしゃいます。

## 木村真論記

千葉大学教養学部を昭和51年3月に卒業され、市響のメンバーになられました。中学校のプラスバンドでフルートを吹かれたのが初めて、本格的には大学のオーケストラ時代にNHK交響楽団の石原利矩氏に師事されました。現在のお仕事は船橋市の二宮小学校で言語治療教室を担当されています。尚、ご主人の純一氏も市響のフルーティストで、笛がとりもつお似合のカップルです。

## 曲 目 紹 介

### 歌劇「魔笛」序曲

W. A. モーツァルト

モーツァルトは1791年の12月5日に亡くなったのだが、その死の年の1年間にこの「魔笛」の他に、歌劇「ティトウスの慈悲」ピアノ協奏曲27番、クラリネット協奏曲、弦楽五重奏(K614)、アヴェ・ヴェルム・コルプス、41曲もの舞曲、そして未完に終わった「レクイエム」と言った驚くべき傑作群を作曲している。この頃の手紙等を読んでみると、どうもモーツァルトは自分の死期を予感していた様なのだが「レクイエム」以外の作品には悲劇的な面は表われておらず、むしろ異常な程の明るさや単純で透明な美しさを誇る様なものがほとんどである。

この「魔笛」もそうした明るさが特徴だが、その底にはモーツァルト自身の「自由な生の絶対的肯定」ともいべき哲学が力強く流れており彼の最高傑作にあげる人が多い。

物語は悪者ザラストロにさらわれた娘パミーナを助けてくれという夜の女王の願いで王子タミーノが鳥刺のハンバゲーノを共に助けに向かうというのが前半。ところが実はザラストロは聖者で、救助に向った二人はそれぞれの恋人パミーナ、ハンバゲーナと結ばれるために様々な試練を受けるが見事それに打勝って祝福を受けるというのが後半で、話としては矛盾だらけなのだがモーツァルトの音楽を伴って聴くと笑いと涙の感動的な作品となってしまふから不思議だ。

序曲は最初と中間部にザラストロを表す三和音がトロンボーンを伴って吹奏されるのが印象的である。主部のアレグロは軽快なテーマによってフーガとソナタ形式をうまくミックスして書かれており、いかにもモーツァルトらしい筆の流れを感じさせる曲である。

### 管弦楽組曲「第2番」

J. S. バッハ

コレギウム・アウレムという古楽器による名アンサンブルが来日した時に千葉の文化会館でこの曲をやったのを聴いたがその時の編成はバッハの頃の、キイのほとんど無いちょうど日本の横笛に近い木のフルートをソロに、弦は各パート一人ずつ、つまり弦楽四重奏にコントラバスとチェンバロを加えたものだった。結果的にはどの楽器が強奏してもフルートは良く聴きとれバランスも良かった。

何故こんな事を書くかと言うと、この曲のフルートのパートは音が低くて昔の様に大編成の弦楽合奏だと弦が強くなり過ぎて非常にバランスが取りにくいので有名な曲だからだ。

この組曲というのは実用音楽的な性格の強いもので、例えば夜会などで食事の時のバックミュージックとして使われたり、実際に踊りの伴奏に使われたりした様である。それぞれの曲に細かく付いている繰り返し記号がそれを物語っている。(リビート記号が多いのはマーチやワルツといった実用音楽の特徴で、その時の夜会等の時間に応じてかなり調整がきくわけで、例えば「今日の来客の御婦人はメヌエツトが好きだから宜しく頼むよセバスチャン」と主君に頼まれれば繰り返しを何回もやって引延せるという様な次第である。)そうしてバッハはチェンバロを弾きながらインザツを取ったのだがその編成は最初にしたアウレムの編成が普通で、もし来客が多くて大きな音が必要な時は弦楽器を1人か2人重ねてせいぜい10数人程度だったろうと言われていた。

曲は1.序曲 2. ロンド 3.サラバンド 4.ブーレ 5.ポロネーズ 6.メヌエツト 7.パディネリという、全曲のほぼ半分の長さをしめる長大なフランス式序曲(緩・急・緩)と6曲の舞曲から成り、フルートは協奏曲等と違って全曲吹き続けなくてはならないので大変スタミナを要するばかりでなく、ポロネーズの中間部のチェロとのデュエツトやパディネリは技巧的にも高度なものを要求される。

## 水上の音楽 G. F. ヘンデル (ハーディ編曲)

今でこそドイツは西洋音楽の中心地の様に考えられているのだがモーツァルトの頃までは中心地はイタリアでドイツはずっと下だった。サルツブルグの大司教に仕えていたモーツァルトの父なども、イタリア人というだけで給料が格段に違うのを嘆いたりしている。(御承知の様に当時のオペラはイタリア語で歌われていたし、何とベートーヴェンの第9のイギリス初演の時の歌詞ですらイタリア語だったという。)ところがイギリスはドイツより更に下で、ドイツの音楽家だというだけで大先生として歓迎され給料も数倍良かった。

ヘンデルは25才の時にドイツのハノーヴァー侯の宮廷楽長の職に着いたが、翌年休暇をとってイギリスに渡って大歓迎された。彼はその味が忘れられず2年後に再度休暇をとって渡英しそのまま居着いてしまい、アン女王の寵愛を受けた。ところが2年後の1714年に女王が急死し、そのあとにジョージ一世として何と旧ハノーヴァー侯が王座に着いたのである。出張先の会社の方が給料がいいのでそこの部長かなんかにおさまっていたら、前の会社の上役が新社長として就任して来た様なものだからヘンデルは困ったわけだが、幸いハノーヴァー侯は音楽の良く分かった人だったので、歌劇「アマディージ」を作曲して捧げ和解に成功した。この水上の音楽も1714年の即位から1年後の1715年のテムズ河での新王の舟遊びの為に舟上で演奏されたのが最初だというのだからそうした意図もかなりあったと言われる。この舟遊びはその後1717年、1736年にも行われ、その都度新しい曲が加えられていった。

今日演奏するのはイギリスの指揮者ハーディが近代オーケストラ用に編曲した版で、1.アレグロ2.アリア 3.ブーレ 4.ホーンパイプ 5.アンダンテ・エスプレッシヴォ 6.アレグロ・デチーソの6曲から成り、うまい選曲で交響曲風な構成にまとめてありオーケストラの演奏会では最も良く演奏されるものである。

## オーボエ協奏曲 ハ短調 A. マルチェロ

今日使っている総譜の表にはベネディットマルチェロ(1686~1739)作曲としてもっともらしい解説が書かれているのだが、最近では彼の兄のアレッサンドロの作曲らしいと言われている。彼等兄弟はヴィヴァルディ(1678?~1741)やアルビーノニ(1671~1750)と同時代にヴェニスで活躍したのでお互いに影響しあっただけで感傷的なアダージョなど非常に良く似ている。

実はこの曲はバッハがチェンバロ独奏用に編曲した形でしか知られていなかった。御承知の様にバッハはイタリア音楽の勉強の為にヴィヴァルディの曲をたくさん編曲しているので、この曲も最初は原曲はヴィヴァルディであろうと考えられていたのだが、やがてオーボエ協奏曲が原曲だと分かった時も有名なB.マルチェロの作曲だとされるといった具合で、手元の総譜などはその頃出版された物であろう。しかしこの曲が世界的に知られる様になったのは映画「ベニスへの愛」で使われたからで映画その物は「短くも美しく燃え」や「幸福」と言った(同じ様にクラシックを使った映画)程にはヒットしなかったのだが、曲はそれ以来オーボエの曲としては最も人気のある曲になってしまった。

第1楽章はアレグロモデラート(「二人の天使」で有名なダニエル・リカリーはこの楽章をスキヤットでレコードに入れている。)

第2楽章はアダージョでこの楽章が一番美しく、又良く知られている。

第3楽章はアレグロの短い楽章である。

## 「マドリガル」

楽曲形式のひとつ、最初は14世紀イタリアのフィレンツェを中心に行われた世俗歌曲であった。16世紀までにフランス・イギリスなどに広まり、とくにエリザベス朝末期のイギリスで盛んに作られた。

## 「バビロン河のほとり」 バレストリーナ作曲

バレストリーナ(1525頃~1594)はイタリアの生んだ16世紀最高の作曲家。教会音楽の作曲にその生涯をささげ、百餘にのぼるミサ曲、六百近いモテット、詩篇・賛歌など、またはほぼ同数のマドリガルを残している。

この晩年のモテットは、他の作品にもしばしばみられるゆううつな気分満ちている。

## 「エクスルターテ・デオ」 スカルラッティ作曲

スカルラッティ(1660~1725)はバロック期のイタリアの代表的作曲家、オペラ、ミサ曲、オラトリオや多くの世俗曲があり、後世に多大な影響を残した。

このモテットは、旧約聖書詩篇第81篇第1節によって、よくうたわれるもののひとつである。

## オラトリオ「メサイア」より終曲 ヘンデル作曲

### 大意

「屠られた小羊は、力と、富と、知恵と、勢いと、誉れと、栄光と、讃美を受けるにふさわしい方。

御座にすわる方と、小羊とに、讃美と誉れと栄光と力が永遠にあるように。

アーメン

終曲の合唱は、楽器と共に全声部がうたいラレゲットに変わった第2部分がテノールとバスによって歌い始められ、次第に広がって見事なポリフォニー奏法を見せる。ホモフォニックな部分とポリフォニックな部分とが繰返されるが、はっきりした線の上に並べられているため効果を一層増している。ニ長調属和音上に半終止し、直ちにアーメンコーラスへと続く。

アーメンコーラスは、「アーメン」の言葉だけによる雄大なフーガであり、バスに歌われた主題が順次上声部へおくられ模倣される。次にオーケストラがこの主題を奏し、再びコーラスは冒頭主題と対位主題を展開する。

リズムと和声、対照的な主題の組み合わせオーケストラの使用法など、まさにヘンデルの合唱フーガの典型であり、「メサイア」を閉じるにふさわしい大曲である。

市響今年度の活動

- 4月1日(金) おはよう野球連盟開会式賛助 於市川市野球場  
 4月29日(金) 市川市美術展開会式賛助 於市川市民会館  
 5月5日(木) 第118回市響「第2回ジュニアオーケストラ演奏会」  
 モーツァルト 喜遊曲 ニ長調 於市川市民会館  
 おどろき交響曲、旧友  
 チャイコフスキー ロメオとジュリエット、その他  
 5月22日(日) 第119回市響「市川交響楽団コンサート」 於市川市民会館  
 リスト 前奏曲  
 メンデルスゾーン 交響曲3番  
 ラロー スペイン交響曲 ソロ 石井美穂子  
 6月12日(日) 千葉県合唱祭参加 於千葉県文化会館  
 6月19日(日) 県民コンサート「交響楽の集い」1:30 於天津小  
 未成交響曲、日本のうた集  
 ラロー スペイン交響曲等 ソロ 石井美穂子  
 7月10日(日) 県民コンサート「交響楽の集い」1:30 於小見川中  
 チャイコフスキー 弦楽セレナーデ  
 他は6月19日と同じプログラム  
 7月24日(日) 第2回日本アマチュアオーケストラ  
 関東甲信越クリニック参加 於市川市民会館  
 8月7日(日) 第120回市響「納涼コンサート」2:00 於市川市民会館  
 ファリア 恋は魔術師より  
 バッハ パッサカリアとフーガ  
 リムスキー・コルサコフ スペイン奇想曲、その他  
 10月2日(日) 千葉県芸術祭開会式賛助 1:30 於千葉県文化会館  
 11月6日(日) 第122回市響「合唱の集い」6:30 於市川市民会館  
 市川混声合唱団、国府台女声合唱団、市川児童合唱団出演  
 11月12日(土) 笠原音楽教室賛助出演 於労音会館  
 11月19日20日 第5回全国アマチュアオーケストラ・フェスティバル  
 佐世保大会参加 於佐世保市民会館  
 団 伊玖磨 西海讃歌  
 ベートーヴェン 第9交響曲  
 11月27日(日) 第4回全日本アマチュア青少年文化祭 於日生劇場  
 オーケストラ部代表演奏 4:00~5:00  
 12月4日(日) 第123回市響「ファミリー交響楽コンサート」 於市川市民会館  
 2:00 指揮 金子建志  
 楽しいクリスマスの音楽メドレー(福田 陽編曲)  
 チャイコフスキー 組曲「くるみ割り人形」その他  
 1月15日(日) 市川市成人式賛助 於市川市体育センター  
 1月29日(日) 広瀬氏叙勲 祝賀会賛助 於東天紅  
 2月19日(日) 市民芸術講座室内楽担当 2:00 於市川市社教会館  
 3月5日(日) 県民コンサート「交響楽の集い」1:30 於成東中  
 3月12日(日) 市民芸術講座室内楽担当 2:00 於市川市社教会館  
 3月19日(日) 第124回市響「室内オーケストラの夕べ」6:30 於市川市民会館  
 マルチェロ オーボエ協奏曲 ソロ 坂 逸郎  
 バッハ 組曲第2番 ソロ 木村真論記  
 その他

予 告

第125回市響

「ジュニアオーケストラ演奏会」

5月5日(日)午後2時

市川市民会館ホール

(国電本八幡より徒歩6分)

未完成交響曲、小夜曲 他

第126回市響

「交響楽の夕べ」

6月11日(日)午後6時半

市川市民会館ホール

ブラームス 祝典序曲

ベートーヴェン No.7 交響曲

チャイコフスキー ピアノ協奏曲

市川交響楽団協会

当協会は昭和26年7月に発会以来27年の歩みを続け、千葉県内に健全な純音楽の普及と啓蒙をはかり、クラシック音楽の愛好者層を増し、平和な潤いのある生活がみちあふれる事を願う文化団体で、然も音楽の中で最も強力に共鳴感を起させるシンフォニックな楽団の育成と、その演奏活動の実践を容易ならしめるための社会教育団体でありまして、利益を得る団体でも、ただ自分中心の、趣味だけを満足させるクラブでもありません。自分達の喜びを少しでも多くの人に分け与えようとする奉仕団体でありまして、同じ趣旨の千葉交響楽団協会の中心的存在であります。又、当協会には、市川交響楽団、市川混声合唱団、市川交響吹奏楽団、市響ジュニアオーケストラの4楽団によって組織されております。

会 長	泰道 照山	
理 事 長	村上 正治	
理 事	今井 正	川崎 千春
	岸本 義一	古賀 米吉
	渋谷 寿光	高橋 国雄
	杉本郁太郎	村岡 元一
監 事	富田 英夫	泰道 三八
評 議 員	飯島藤十郎	大久保康雄
		他23名
顧 問	出光 昭介	白井 莊一
	片岡 直令	坂齋梅三郎
	友納 武人	鳥海 一郎
	村岡 信一	三木 春逸
	渡辺一太郎	他23名
参 与	伊藤恒太郎	大木 正興
		他 110名

事務局長 熊谷 信昭  
事務局次長 伊藤 順夫  
会 計 横田 朝之

会員募集

当協会の社会教育活動を円滑にして下さる協力会員の事で、会員は案内通知を受けますし当協会主催の行事には入場無料、特別演奏会は半額です。

維持会員 年 2,000円

賛助会員 年10,000円以上

団員募集

入会金 1,000円 会費月 500円

各楽団を兼ねる事が出来る

市川交響楽団練習

市川小学校講堂(国道沿い)

市川駅北口より国道西へ徒歩4分

京成真間駅西口より徒歩8分

毎土曜日午後6時20分

市川交響吹奏楽団練習

宮田小学校講堂(北越通り)

市川駅南口より東へ徒歩3分

京成真間駅南口より徒歩8分

毎金曜日午後6時30分

市川混成合唱団練習

自然幼稚園(消防署本部裏)

市川駅北口より国道東へ徒歩3分

京成真間駅東口より徒歩2分

毎木曜日午後7時

技量は問題にしません

市響ジュニアオーケストラ練習

熊谷ビル三階

市川駅南口アーケード中央出口より

左へ20m右側

毎日曜日午後1時

事務局 市川市新田2-33-10

TEL 0473(23)1619